

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590500294		
法人名	NPO法人コミュニティケア大内		
事業所名	ピアホーム福ふく		
所在地	秋田県由利本荘市岩谷町字西野209		
自己評価作成日	令和5年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/05/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=0590500294-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田県秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館内		
訪問調査日	令和5年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

限られた利用者だけではなく、地域の方たちから、あってよかったと思ってもらえる地域資源になることを目標として運営しております。
 そのために、地域住民、障がい施設、保育園等との交流機会を通じ、利用者の社会的な関わりの機会を作るとともに、広く地域の方たちに足を運んでいただき、事業についての理解をしていただくよう努めています。
 日頃のケアでは、グループホームの趣旨を踏まえ、介護施設という雰囲気、環境づくりではなく、自宅のように、自由に、本人の意思決定を尊重した寄り添うケアに力を入れております。そのため、全員参加型のレクリエーション等、自宅で想定できない活動はしていません。その代わりに、利用者同士が語り、その中で自然発生的な稼働を促し、職員がそれを支援するようしております。
 家族等が自由に足を運べ、利用者も外に出かけやすいように、日中の活動時間帯は出入口をすべて開放しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の想いに寄り添い、思いを表出できるような意思決定支援を心掛けている。コロナ禍においても面会時間は、10時～19時としているのも家族が面会し易く、家族関係を大切にしているためとのこと。
 地域住民、障がい施設、保育園等との交流機会を通じ、利用者の社会的な関わりの機会を作るとともに、敷地内の畑は近隣の畑名人の指導の下、利用者や職員で協力して新鮮な野菜が作られ食べられている。日頃から交流を大切に、出入口を開放し利用者が外出しても地域住民が連れてきてくれるなど顔の見える関係が築かれている。災害時対策も、利用者はもちろんのこと、地域の医療を必要とする住民にも目を向け、蓄電設備や地域の医療機関との連携を確保している。「仕事が楽しい、ずっとここで働きたい」と話す職員達と施設の理念を共有しながら、あってよかったと思われる地域資源を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:19,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:8,9,15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:14)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,16)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
50 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57 職員は、生き活きと働いている(参考項目:10)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:41)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の理念は、創業時の役職員で作ったものである。新人採用時には、採用研修の1コマとして法人理念の理解を深めるよう取り組んでいる。	職員は全員理事になっており、理念作成に参加しているため、共有・実践が行き届いている。今年度は1ユニット増設し新たに始動している。新人採用研修においても法人・施設の理念の理解、財務内容まで指導・教育に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃より、町内会をはじめ様々な地域の機関等との交流に取り組んでいる。町内会とは特に、町内会員として行事へ参加している。交流を通じて、事業に対する理解が深まっている。	コロナ過においても地域の人々の協力が大きく災害時対策も地域と協力体制を組み地域との交流が続けられていた。町内会員としての交流も徐々に再開されてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を通じて、認知症の方の抱えている課題等について地域の方等に伝達しており、併せて参加者の方たちには地域への認知症の理解について啓発をお願いしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	左記のほか、地域との交流方法等についても、意見を求めていく。	支援の気付きとしてヒヤリハット、研修報告、外部評価等、運営推進会議の資料は充実している。参加者はコロナの影響で限定されていたが徐々に広げ、障害者GHとも連携をしてコロナ前の地域の交流の状態までしていきたいとのこと。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	左記のとおり実施している。	市役所の担当課、生保担当等との連携に努め、協力を得て常に情報交換を行っている。地域包括支援センターから困難事例などの相談も多い。職員間で話し合いながら対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な内部研修等を実施し、事業所の解放を含めて実践している。	「身体拘束等適正化のための指針」を確認。「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書」には理由、期間、必要に応じて見直しの記載、説明同意の記載を確認。コロナの影響で研修は外部の研修参加ができない状態であるも、ズームで他県の4法人(新潟、福島、山形、宮城)と身体拘束、虐待などの総合研修(内部研修)を実施している。当日参加できない職員はスマホでも視聴できるようにしている。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な内部研修等を実施し、事業所の解放を含めて実践している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明も含め、契約の際には、説明を含め利用者、家族の不安が生じないような締結に努めている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	苦情を含めた要望等の受付窓口について重要事項に含め知っていただくよう努めている。 受け付けた要望等は、運営推進会議等を通じ、今後の運営に役立つよう取り組むこととしている。	コロナ禍においても面会制限することなく行っていた。面会時間は10:00~19:00としているが、それ以外もできるだけ家族の要望を聴くようにしている。 要望等は、運営推進会議等を通じ、今後の運営に役立つよう取り組みをしている	
		代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	企画立案について職員に積極的に提出するよう促しており、提出者には手当を支給するといった仕組みを作っている。	職員の意見は文書、口頭でも聴くようにし、良い提案、企画書作成、実行状況によっては手当を支給、する仕組みがある。職員の立案で、「利用者の活動参加や共同作業を行った際は、職員がありがとうスタンプを押すシステム」を作るなど、利用者の自立支援と職員の意識、発想の転換もできている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新潟と山形と私どもの3法人でオンラインの相互研修を毎月開催している。Web参加の事業所ともディスカッションを行い、サービスの質の向上をめざしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自ら行っている相談援助技術について、事業所内で話し合い研鑽するよう努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自ら行っている相談援助技術について、事業所内で話し合い研鑽するよう努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	要介護者は単に支援を要する人という考え方ではなく、1人の人として接するよう方針を打ち出し、新人職員研修等で伝達しており、実践するよう努めている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係が途切れないよう、面会時の環境づくり、外出、外泊時で生じた課題に対応するようにしている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	地域住民との交流機会への参加、地域商店への買い物支援や地域の方々から足を運びやすいような雰囲気づくりに配慮している。	入居者は生活圏内の方々が大半で常に顔の見える関係でなじみの関係が継続されている。職員も地域から通っている職員が多く、地域と利用者の懸け橋になっている。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	畑の野菜づくりなどの共同作業への参加を促したり、何に興味があるかを観察しながら仲間づくりにつなげている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も利用者、家族等が抱えている課題について、法人の他の事業所の機能も生かしながら支援を続ける姿勢を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーション機会をできるだけ多く作り、何気ないコミュニケーションの中から、ニーズを吸い上げ、支援を行うよう努めている。	一人一人の思いや暮らし方の希望など丁寧なアセスメントをして、何気ない利用者同士の話などから職員はニーズをくみ取り、常に利用者のそばに寄り添って支援をしている	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで歩んできた生活状況を把握し、介護中心でなく、生活支援に力を入れた支援に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	介護計画作成時には、パーソンセンタードケアの理念をもとに、職員それぞれの意見を集約し作成するよう努めている。	入居前の一人一人の生活リズムを中心に、パーソンセンタードケア理念のもと、本人、ご家族、職員一人一人の意見を取り入れながら介護計画を作成している。介護計画は職員全員で回覧、共有している。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	個別の記録とともに、日頃から気づいたことを職員同士が情報を共有し、話し合っって今後のケアに役立てていく姿勢をとるようにしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアや地域住民が、利用者とのかわりを作れるような機会や環境づくりに努めている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への情報提供、通院支援等は当然行っており、薬局については、地域の薬局にかかりつけとなっただき、服薬についての助言、配達等の支援を受けている。	かかりつけ医、歯科医、かかりつけ薬局は地域の中にあり、協力を得て話しやすい関係。受診は常に生活を共にしている職員が受診支援を行いご家族には状態の報告を行っている。特にコロナ渦においての受診方法は協力医療期間と入念に打ち合わせし、指導助言を受けている。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所看護師との話し合いは当然行っているが、末期がん等の利用者の場合、協力医療機関の訪問看護と協同で利用者の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関をはじめとする退院支援担当者、MSWとは良好な関係を作っている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	左記のとおり取り組んでいる。	入所契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を家族と相談、確認して方針を決めている。また医療機関との連携を密にして看取り介護が行われている。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実戦訓練は行ってはいないが、個別ケースのリスクに合わせた対応方法について話し合い、都度取り決めを行っている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害計画の作成、避難訓練を実施しており、町内とも災害時の協力について協定を結んでいる。	コロナの影響で参加人数は限られるが、できる範囲で消防、地域町内会の協力のもと、避難訓練を実施している。町内にある障害者施設、町内会とは災害時の協力についての協定を結んでいる。昼夜を問わない訓練は計画・実施が可能とのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員倫理等も含め、マニュアルを作成し定期的に内部研修を実施している。	職員倫理等も含め、マニュアルを作成し定期的に内部研修している。職員は一人一人の利用者の自尊心を損なわないように声掛けをしている	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の買い物支援や定期的な理容店への送迎等により左記の事項が実現できるよう支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の自発的な行動を促し、強制的な取り組みにならないよう注意をしている。近隣の農家との交流を通じ、いただいた収穫物を利用者と楽しみながら食べる等地域とのかかわりを通じた食を進めている。	食事の支度や後片付けなど利用者一人一人が自分でできることを行っている。一人一人のこだわりの部分大切にしている。敷地内で育てた野菜を食する喜びもある	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は都度確認をし、データとしてとっており、必要に応じかかりつけにも報告をし、助言をいただくようにしている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	重度の方を除き、見守りのなかで、うまくできない部分については、必要最小限の支援を行うよう努めている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを確認するとともに、強制的に誘導せず、仮に失敗をしたとしても自尊心傷つけない態度で接するよう努めている。必要に応じポータブルトイレ等の環境の整備も行うようにしている。	一人一人の排泄パターンに沿って職員が利用者がトイレに入ったら、さりげなく排泄状況を確認している。職員は、排泄の失敗より自尊心を重要視している姿勢が見える。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者については、服薬調整だけではなく、個別に乳製品や水分量の調整等様々な工夫を凝らすよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の生活リズムにできるだけ合わせるよう、職員の過度な負担にならない範囲で柔軟に対応できるよう努めている。	入浴の時間や曜日を一律に決めず、利用者の生活リズムに合わせた柔軟な対応で、毎日入浴対応できる体制になっている。今年度増床されたユニットには車いすのまま入浴できる設備も整えられた。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	地域の高齢者の習慣も参考にし、夕食の時間を少し早めにしたたり、眠れない方の話し相手をしたり、習慣や個々の特性に合わせた対応を行うよう努めている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力薬局と相談ができる関係にあり、必要に応じて協力、助言を求めることができる。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の行動を制限せずに、自由な時間を過ごしてもらえよう配慮している。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や外泊機会について、家族への協力も含め支援している。また、日用品やし好品等についての買い物も極力利用者と足を運び、自分で選んでもらったものを購入するようにしている。		
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	左記のとおり工夫している。 みんなで一緒にソフトクリームを楽しむ機会を設けたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	先のように努めている。 秋田大学理工学部等との共同研究で、音、香り、光の三要素の機材を導入し、るBPSDの変化、職員のストレス度についてデータを収集している。	共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮する研究(秋田大学理工学部等との共同)を活用し、BPSDの変化、職員のストレス度についてデータを収集している。生活感や季節感を採り入れた行事写真や掲示物がある。入居者が自分の居場所として居心地よく過ごせるような工夫や、自分専用の椅子やソファで穏やかな表情でゆったりとくつろいでいる。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	左記のとおり工夫をしている。 屋外用のベンチを置いてくつろぎの場を設けている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	左記のとおり利用者、家族に説明をし持ち込みを可能としている。	利用者のご家族と相談の上自分好みのレイアウトにしていた。自身の部屋でゆったりと、思い思いに過ごされている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線の長さ、表示等、利用者が過ごしやすく、ストレスの感じない環境づくりに努めている。		